

福山駅前広場市民対話集会（2025年8月9日）

全体での意見交換の内容

Q1. 今の駅前広場の整備から12年しか経っていないのに、どうしてまた整備をするんですか？

A. この10数年で、社会情勢、経済情勢、まちづくりの考え方も大きく変わってきています。国交省も含めて全国の多くの都市のまちづくりは、駅まち空間をウォークアブルにするという方向性で進んでいます。福山駅周辺再生の取組は2016年から開始しており、福山駅周辺を官民連携で少しずつまちを変えていく取組を進めています。福山城から中央公園、伏見町、三之丸地区、そうしたエリアごとにと取組を進め、それらをウォークアブルエリアとしてつなぐ、その核となる場所が駅前広場だと考えています。

完成するのは、恐らく、今から10年後くらいです。10歳のこどもが20歳になるくらいのスケールなので、非常に想像力があることです。全国で駅まち空間をウォークアブルにするという方向性で進んでおり、都市間競争の中で色々な都市が造り直そうとしています。こどもからお年寄りまでの多世代が暮らせるまちづくりのきっかけにしようとしています。これから10年後くらいということと、国の財政支援も含めて、現時点でどう考えるか。時間軸と社会情勢を含めてご意見をいただきたいと思います。

Q2. 広場をつくることで、どうして企業が誘致されるの？

A. 来街者が、駅を通じて最初に持つ「まちのイメージ」は、最初に目にする駅前広場で感じることが多いと思います。企業が立地する条件は、企業によって色々な考え方があります。どういう形で整備するか、最終的な結論はこれから議論をしていきますが、向かうべき方向性として、「このまちの産業が豊かになるため」「このまちが持続していくため」には、若い人が働きたいと思う、住みたいと思う未来をどう創っていくかということ、駅前広場だけでなく、まち全体で考えることが大切だと考えています。

Q3. 交通結節点なのに、なぜ広場ありきの計画をしているのか。

A. 2020年度に行った福山駅前広場に関するアンケート調査では、現在の駅前広場の環境空間に対する評価について、「十分・やや十分」が約10%、「不十分・やや不十分」が約50%でした。そのため、交通結節機能と人のための広場機能を融合させる検討を進めています。

Q4. 福山らしさはどのようなことを考えているのか。

A. 2023年3月に策定した福山駅前広場整備基本方針において、福山らしさをしっかり表現していくこととしています。ハード面として、福山城の城郭の中に駅があることやばら

を表現していきたいと考えています。ソフト面として、地域の魅力や産業などの情報を発信できる場にするを考えています。

Q5. 福山らしさというのは、城だけではない。周辺の地域には、海や山、畑もある。駅に一点集中ではなく、全市的な視点で考えてもらいたい。

A. それぞれの地域には素晴らしい資源があります。駅前には都市の玄関口であり、情報発信に効果的な場所です。福山市の魅力や産業だけでなく、地域資源を発信できる場所にもなるための運営が大事になると考えています。駅周辺の活性化は、市域、備後圏域にも波及するものだと思います。

Q6. 誰をターゲットにした計画なのか。

A. 市民も来街者もターゲットだと考えています。この人に限るというものではありません。市民はもちろん、ビジネスや観光で市外から訪れる方もいます。時間帯や季節によっても訪れる方は様々です。幅広く、居心地良く過ごしたい全ての方がターゲットになるという議論をしています。

Q7. 広場へは何で（バス、徒歩、自転車など）来る想定をしているのか。

A. 以前の協議会で示した資料を参考に添付しています。考え方として、3つ整理しています。1つ目は、将来を見据えて交通結節の最大化を図ること。まず、あらゆる交通をいかに駅に接続させるかを基本的なこととして議論してきました。2つ目に福山へのお出迎えの場として、福山城の大広間をつくること。3つ目は、福山城の歴史遺構を尊重すること。この資料は北口のバスターミナルが見送りになる前のものです。現在の駅前広場は間口が限られているため、そこにみんなが集まって接続すると混雑します。駅舎は東西に長いので、さんすて福山を通りながら幅広く接続できる形を考えることで、駅前広場にゆっくり過ごせる場所を確保しています。駅前広場や北口広場、南側の駅前大通りも含めて、大広間として空間を確保することで、街の中をゆっくり歩ける南北の軸をつくっています。駅前広場の中にある遺構については、お堀の中だった部分には水盤を配置しています。あらゆる交通を駅前広場の中だけでなく、駅の東西南北で接続するという考え方です。これがこれまでの計画案ですが、北口のバスターミナルが当面見送りになったため、今後の配置については皆さんの意見を聴きながら、検討することになると思います。

Q8. 人がいない駅前に広場をつくって、どのように人を集めるのか。

A. 広場を造るだけで人が来るとは考えていません。福山駅前再生ビジョンや福山駅周辺デザイン計画を策定し、駅周辺の4つのエリアで、官民が様々な取組を進めることでにぎわいを取り戻すこととしています。例えば、伏見町であれば、リノベーションまちづくり。三之丸町であれば、ニューキャスパのオープンやエフピコ RiM の再生。中央公園ではパーク P

F I によるカフェの整備。そして、それらの中心に位置する駅前広場でエリア間を繋ぎ、さらに回遊性を増していきたいと考えています。駅前広場が起点となって、駅周辺を活性化させていき、相乗効果で人が集まってくる。駅前広場のものにも魅力を持たせ、周辺エリアに人を流していきたいと考えています。

Q 9. なぜ、広場に拘るのか。誰が言い出したのか。

A. 広場ありきで進めているわけではありません。無作為抽出でのアンケートに基づいて、広場の検討を進めています。

Q 10. なぜ現在の駅前広場を変えなければならないのか、説明してほしい。

A. 2020年度に行った福山駅前広場に関するアンケート調査では、現在の駅前広場の環境空間に対する評価について、「十分・やや十分」が約10%、「不十分・やや不十分」が約50%でした。そのため、交通結節機能と人のための広場機能を融合させる検討を進めているものです。

Q 11. バスターミナルはどこへ配置するのか。

A. 北口へのバスターミナル配置は当面見送ることとしています。協議会や市民対話集会の意見も踏まえて、代案を考えていきたいと思えます。現在の計画（今、示しているバスターミナルを北口広場に配置するたたき台の計画）は、現況の交通量を確認し、計画の交通を加味して、渋滞が起らないことを確認しています。計画が変わった場合においても、交通処理を確認しながら進めていきたいと考えています。

Q 12. 北口バスターミナルはどうするのか。見送るということであれば、代案を出さないといけないのではないか。

A. 7月25日に開催した福山駅前広場協議会の意見を踏まえて、当面見送るということにしています。今後の協議会や市民対話集会などの意見も踏まえ、代案を考えていきます。協議会では、北口バスターミナルは難しくなったが、全面的な広場化はめざして、案を考えてほしいという意見もありました。様々な案を検討し、皆さまにもお示ししたいと思います。

Q 13. 天満屋の前にバス停を配置すると渋滞するのではないか。

A. 北口へのバスターミナル配置は当面見送りにはなったが、現在の計画（今、示しているバスターミナルを北口広場に配置するたたき台の計画）は、現況の交通量を確認し、計画の交通を加味して、渋滞が起らないことを確認しています。

Q 14. 駅前に人が集まると車の流入が増える。交通渋滞対策について話が聞きたい。

A. 駅前大通りや天満屋前など、計画に係る道路の交通量は確認しています。そのうえ

で、現在の交通量にバスの流れを変えたときの交通量を加味したうえで、路線単位でうまく流すことができるのかどうか、道路の基準に照らして計画を進めることにしています。青時間の比率や交差点形状なども大きな要素になると考えています。北口バスターミナルの計画は当面見送ることとなりましたが、現在の計画は渋滞が起こらないことを確認しています。

Q15. 駅前広場の計画の際、ペDESTリアンデッキの検討をしなかったのか。

A. 今の駅前広場を計画した際も今回も議論をしています。今の駅舎は昭和50年の新幹線開通に合わせて、二重高架方式になりました。2階が在来線、3階が新幹線になっています。ペDESTリアンデッキで接続をしたとしても、反対側のホームへ移動をする際には、上下の移動が必要になるため、平面での整備が良いという議論をしてきました。ウォークブルの視点でも、デッキで商業施設をつなぐより、1階部分を歩いて移動できる空間を整備していく方がよいと考えています。

Q16. ペDESTリアンデッキで駅とつなぐことは構造的に不可能なのか。

A. 駅の構造が変えられるかどうかは、JR でないと判断できません。JR の運営上の問題など、単純に改札を付けられるか付けられないかという問題だけではないということもあると思います。

Q17. たくさんの人が来るようになると、車が増えるので、駐車場についての考えを聞きたい。

A. 車社会なので、駐車場も大切だと思っています。公共や民間の駐車場が効率良く使えるような検討も必要と考えています。

Q18. 歴史的なものがたくさんある北側をもっとアピールしないのか。ウォークブルは南側を歩かせて、南側にお金を落とすことが見え隠れする。もっと北側を入れてほしい。

A. 駅の北側もウォークブルエリアに含まれています。歴史や文化資源を生かしながら取り組んでいきたいと考えています。

Q19. 福山城の活用というのは、ゾーン全体を江戸時代風にするのがよい。それが福山らしさ。福山城を生かすのであれば、本物感を出さないといけない。

A. 歴史の表現方法については、協議会や文化財保護審議会の会長にご参加いただいた分科会で議論を重ねてきました。議論してきたことは、駅の南側にも福山城の遺構があるので、それを表現しようということです。二重櫓については復元したいという意見がありましたが、現時点では史実が揃っていません。ただ、史実が揃うまでの間、何もしないのではなく、例えば、調査が進めば整備のイメージを映像で表現しながら、史実が固まった時に再建する

というプロセスを踏もうという話をしています。

Q 2 0. 伏見町の再開発をどのように考えているのか。

A. かつて、伏見町全体を再開発するために準備組合が設立されていましたが、経済情勢の変化もあり、再開発事業は難しいということで、2016年に準備組合が解散しました。そこから、福山駅周辺の再生に取り組むにあたり、いきなり再開発は難しいため、リノベーションまちづくりにより、小さなところから取り組んでいます。リノベーションで完成とは思っていません。リノベーションまちづくりによって、伏見町では店舗数が相当増えました。地価も周辺の商業地よりも高くなっています。最終的には民間投資による共同建て替えをめざしています。駅前広場を整備することに併せて、伏見町でも共同建て替えなど、まちを変えていこうという話が出てきています。商店会も勉強会を開催したりしています。そういう動きと連携をとりながら進めていきたいと考えています。

Q 2 1. 広場の充実が求められていることは分かる。交通と広場の融合というのであれば、100対0ということはない。バスターミナルを駅前広場の南側に残しつつ、駅前広場の北側に広場を造って、様子を見るというのはどうか。

A. 駅前広場だけでなく、周辺の道路も含めて、広場機能と交通結節機能をいかに配置するかを検討しています。ご意見も参考にさせていただきます。

Q 2 2. JRの協議や公安委員会となぜ協議をしていなかったのか。

A. 協議会において、バスターミナルを広場の外へ配置し、全面的な広場機能を配置できないか、検討してもらいたいという意見があったため、北口のバスターミナルの実現可能性を検討することとしました。昨年9月の協議会において、北口にバスターミナルを配置する際には、現状の交通に支障が出るため、道路の拡幅が必要になることを説明したところ、JRからさんすての一部を除却することの検討に協力はできるという話をもらいました。それ以降、JRと情報を共有しながら、さんすての除却について検討してもらっていたものです。道路については、道路の基準があるため、それをもとにまずは道路の形状などを設計しています。お示ししているたたき台の図面（計画）は、計画を検討している段階であるため、正式な意見照会はありませんが、公安委員会には事前に相談しています。

Q 2 3. 丸之内公園が整備されているのに、また公園がいるのか。

A. 丸之内公園は街区公園という意味合いでの整備となります。福山城公園との連携を図りつつ、小さなお子様からご高齢の方まで集まって楽しんでもらえばと考えています。ただ、福山駅前広場は少し意味合いが違います。憩える空間であることも大事ですが、福山駅前は備後圏域の玄関口です。まちの魅力やにぎわいを感じられる空間となり、周辺市街地への経済的な波及などにもつながるような場所になることをめざしています。

Q24. アンケートのわずかな回答数を基に、市民の意見だと言うのはおかしいのでは。

A. 統計学では、46万人都市で400件のサンプルを取れば、95%の信頼度があるといわれています。総合計画などでアンケートを取ると回答率は40%くらいです。4,000人に配布して、結果1,800件を超える回答を得ています。

Q25. アンケートも十分に行っているというが、アンケートは作為的にできるため、信用できない。

A. アンケートだけで十分だと説明したわけではありません。アンケートをもとに進めています。市民対話集会も色々な意見を聴くために開催しているものです。アンケートは作為的に作成していません。我々も真摯に福山を良くしていこうと考えています。

Q26. アンケートの中身の性質を明らかにしないとイケないのではないか。

A. 最初は、無作為抽出で4,000人に送付し、回答が1,800件ありました。その後、本庁や各拠点支所への設置や市公式 LINE を活用してのアンケートで5,000人を超えるアンケートを実施しました。貴重な意見として頂戴し、確実な数字でお示ししていきます。

Q27. 次の市民対話集会の時期とやり方を教えてもらいたい。アンケートは全市を対象に実施しないのか。

A. 市民との対話の場はまた持ちたいと思っています。時期ややり方については、協議会で議論します。アンケートについても協議会で議論しながら検討したいと考えています。

Q28. 広報はどういう形でやっているのか。私は署名活動の書類を見て、初めて知った。

A. これまで、広報紙や報道提供なども行ってきましたが、まだまだ足りないと感じています。しっかり取り組んでいきたいと思っています。

Q29. 市の進め方について疑問。市民の意見も聞いていない中で、図面を示されるのはいかがかと思う。

A. これまでの福山駅前広場デザインシンポジウムや福山駅前広場協議会など、全て議論は公開しています。一方で、もう少し丁寧に説明してもらいたいという意見ももらっています。この市民対話集会での全ての意見を持ち帰り、フィードバックしながら進めたいと思います。

Q30. 今後、どのように情報発信をし、市民の意見を聴いていくのか。

A. 適宜、ホームページや市公式 LINE、広報紙で発信していきたいと思っています。これからを担う若い世代を対象としたワークショップも開催します。また、改めて市民の意見を聴く

場も開催したいと考えています。

Q3 1. 事例から、整備効果（ターミナル機能や賑わい機能がどうなったのか）を教えてください。

A. 姫路駅の事例では、車道中心だった駅前をトランジットモール化するとともに、ゆとりある歩行者空間に再整備しています。商店街との連携を強めています。整備後、イベント回数が1.7倍、駅周辺の商業地の地価が25%上昇、駅周辺の商業床面積が約2万㎡増えています。広場で楽しむとか遊ぶということだけではなく、良質な公共空間ができることで、人が滞在し、その周辺に回遊が生まれます。そうすることで民間投資を呼び込み、地価が上がり、税収の増加にもつながると考えています。

Q3 2. 姫路は広場が出来たから発展したわけではない。1993年（平成5年）に姫路城が世界遺産になったおかげ。市の説明はおかしい。

A. 姫路では、2014年（平成26年）に駅前を再整備しており、その後の整備効果を国の公表資料などを参考に紹介しています。商店街や姫路城の魅力など、当然、広場以外の要因も含めてのものだとは考えています。

Q3 3. 佐賀では、城の中で大花火大会をしているそう。福山城で花火大会をすることは経済効果が高いのではないか。

A. 大花火大会でもないと思いますが、昔からやっているものです。福山城でやる場合も、安全性をどれだけ担保できるのか。できるかどうかは別として、お城と花火は合うとは思いますが。安全上の問題も検討しながら皆さんで議論できればと思います。

Q3 4. イオンモールが若者を惹きつける。

A. イオンモールは全国どこにでもあります。福山らしさを感じられる空間が駅の正面にあることも大事だと考えています。

Q3 5. 事業費を教えてください。

A. 現在、機能配置や規模を検討している段階のため、事業費は計算していません。基本計画を定める際に、事業費もセットで議会の承認を得るようになると考えています。

Q3 6. 計画を先に決めて、後からお金を決めるのはおかしい。

A. 計画と予算はセットです。最初に予算だけを決めて、その範囲内で計画を決めることはありません。

Q3 7. 今後の整備計画では、200～300億円が必要になると聞いている。

A. 計画が決まっていないため、事業費は出せていません。計画がある程度固まった段階で概算事業費なども併せてお示ししたいと考えています。

Q 3 8. 災害時の使い方はどうなるのか。

A. 防災機能も検討が必要だと考えています。福山城公園が広域避難場所に位置付けられていますが、駅前広場に広いスペースができれば、一旦逃げ込むことができるような空間にもなると思います。福山駅の直近でもあるので帰宅困難な方が一時的に逃げ込み、受け入れに協力してもらえる建物に入ることもあり得ると思います。協議会において防災の視点も議論されています。

Q 3 9. 昨年度実施された実証実験の検証はどうなっているのか。今後、送迎バスはどうなるのか。

A. 高架の南側の道路を、東向きに一方通行とする実証実験を行い、色々な意見をいただきました。それを踏まえて、一方通行化は行わないこととしました。現在お示ししている計画は、送迎バス乗降場の配置も、さんすての南側付近に配置するよう変更しています。

Q 4 0. 送迎バス乗降場は北口に戻らないのか。

A. 以前、北口広場の北側に縦列で送迎バスが駐車していました。利用者の安全性や渋滞の課題がありました。現在、仮に南側に移しています。今後、駅南側の広場計画の中で一体的に考えていくことになります。

Q 4 1. 市内の高校に通っている。高校生に聞いたが、福山駅前に何が欲しいかと聞いたら、遊ぶところ、次に勉強するところと言っていた。若者は福山城やばらに全く興味はない。

A. 若者の意見も聴きたいと考えています。未来のことを考えていくため、中学生から40代までのワークショップを開催します。是非参加していただきたいと思います。

Q 4 2. 人が多く集まれば、ゴミの問題や防犯上の問題も考えられる。デメリットについて、どのように考えているのか。

A. 整備をして終わりではありません。どのように管理運営をしていくのかも重要です。管理運営については民間の力も借りながら、検討していきたいと思います。

Q 4 3. 駅の周辺にゴミ箱が設置されていないのはなぜか。

A. ゴミ箱は、以前置いていた時期がありました。カラスに荒らされてゴミが散乱するなどの被害があり、対応に苦慮して、撤去した経緯があります。今後どうするかについては検討したいと思います。

Q44. 北口の公園で、多くの外国人がゴミを捨てている。たばこを吸って帰っていく人もいる。把握しているのか。その状況が南側に移るだけではないのか。懸念している。

A. ゴミやたむろの問題については把握しています。現在、市職員が清掃や指導を行っています。どこでも管理が必要になります。駅前広場の管理運営については、民間の力を得ることも含めて考えていきます。

Q45. 樹木を植えるとムクドリが増える。現在も郵便局の前やもみじ銀行のところは、誰も掃除しない。駅前広場ができれば、ムクドリの鳴き声や糞は誰が掃除するのか。

A. 整備をして終わりだと思っていません。管理・運営が大事だと考えています。どういう施設を造って、どう管理するか、運営するかを併せて考えていく必要があります。

Q46. バスターミナルの掲示板や駅のデジタル時計も動いていない。この状態で広場ができた際に維持できるのか。

A. 今回の広場の再整備について、造って終わりではないと思っています。造った後の管理や運営も一緒に考えていく必要があります。公共施設だから市が全て管理するのではなく、民間の使い方や民間の力を得ることも含めて、どのような管理がいいのか議論していきたいと思います。

Q47. 駅が活性化することは応援したいが、安心安全や警備なども一緒に考えてほしい。

A. 現状でも北口スクエアを造って以降、問題があることは承知しています。職員も指導に回ったりしています。いただいたご意見は今後の議論に生かしていきたいと思います。

Q48. 清水さんと西村さんにまちづくりが成功しているのか聞きたい。どうやって人を集めるのかを具体的に教えてもらいたい。

A. 成功というより進化し続けていると思っています。周辺エリアは進化しながら、皆さんが頑張っていると思います。その中で駅前広場が、今の状態でいいのか、もう少しまちなかに人が滞留し、循環することで、周辺のお店に足を運ぶきっかけになれば良いのでは、ということを考えています。

Q49. 駅の南側には、高さ制限があるのか。

A. 駅より南側には絶対高さの制限はありません。建物を建てる際には、敷地に対しての容積率等の基準を考える必要があります。

Q50. 思いやり駐輪場の管理をきちんとしてもらいたい。

A. 歩行が難しい方などのために設置しています。しっかり使っていただけるように管理をしたいと思います。

Q 5 1. 政治的な面で疑念がある。市長は色々なところで工事をしようとしている。バスやタクシーも反対する中でどうして広場整備を行うのか。

A. 政治的な意図ではなく、議論の見える化を図り、市民の意見を聴きながら進めています。

Q 5 2. コンサルの説明は以前聞いた神辺での説明と同じ。神辺のことも良く知らないようだった。コンサルはボランティアで地元の人間がやるべきではないか。

A. 専門家の意見も参考に取り組んでいます。神辺での講演に参加した神辺の活性化協議会のメンバーが複数名、講師の話が良かったからと別の地域での講演にも参加されていました。まちづくりに対しては、感じ方が人それぞれあると思います。

Q 5 3. 組織体は土木だけではダメ。横断的、水平型でメンバーが集まらないと話にならない。

A. 様々な部署が関わりながら取り組んでおり、土木技師以外の職員もたくさん関わっています。